

よりよい学級・学校づくりに参画する子どもの育成

小 学 校 森田 宏美

研究協力者 尾川 満宏（愛媛大学）

1 主題設定の理由

私たちは社会の中で、様々な集団を単位として活動する。その集団は目的によってつながっていたり、生活する地域が同じという点においてつながっていたりと様々なものがある。そして学校そのものが一つの社会でもあり、今を生きる子どもたちにとって、未来の社会に向けての準備段階の場でもある。その準備の時期である学校では、様々な変化に積極的に向き合い、友達と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるような資質・能力を育成することが求められている。

本プロジェクトではその役割の一端を担うために、「参画する」をキーワードに、「なす事によって学ぶ」を重視した教育活動を展開し、様々な課題に積極的に向き合い、友達と協働して課題を解決し、新たな課題に向け挑戦することのできる資質・能力を育成したいと考える。

ここで言う「参画する」資質・能力とは、課題を発見する力や協働で議題を選定しようとする態度、合意形成を図ることのできる力や協働して問題を解決しようとする態度、決まったことを実践する態度、自他のよさを生かして自分の役割を果たす態度や課題を解決する力、更なる高みを目指しての課題を見付ける力、と捉えている。

研究実践に当たり、学級・学校生活の向上に向けた話し合い活動を重点に進めていきたい。

2 〈自己効力感〉が高まるくすのき学習【学級・学校】の授業づくり

(1) くすのき学習【学級・学校】における〈自己効力感〉が高まっている姿

学びや活動を生かして、協働しながらよりよい自分や学級・学校を形成しようとしている。

(2) 〈自己効力感〉が高まる指導と評価

ア 「出会い」の場面

- ・ 写真やVTR、アンケート調査など課題が発見できる資料の準備
- ・ 子ども同士の話し合いによる議題の決定
- ・ 思考ツールの活用

「出会い」の場面では、始めに、今までの学級や学校生活を振り返る時間と場を確保する。その後で、学級・学校に関するアンケートによる実態把握、朝の会や帰りの会で話題になったもの、係活動や当番活動の感想、子どもの日記、これまでの活動の記録や振り返りカードなどを基に、より充実した学級・学校生活にするために、みんなで取り組みたいこと、つくってみたい物、解決したいことなど、一人一人が何をすればよいかを主体的に見いだす。それは学級・学校全員のためになるものか、本気で取り組むことができるか、今、話し合う意義や価値があるものかなどを視点に話し合わせ、学級目標に沿った一貫性のある「議題」を学級全員で決定させる。子どもにとって課題意識が強い議題や題材を一部の子もだけで設定するのではなく、みんなで知恵を絞って決めることで、「追究」の場面での話し合い活動に向けた意欲の向上を図りたい。

課題解決の必要性を共有した後で、「学級や学校のために行動できてうれしい。更によくなるように頑張りたい」など、課題が解決したときの達成感や自己実現した時の喜びを期待させる。

そこで、「活動計画カード」を工夫し、決まった議題や提案理由、方法など解決に向けての自分の考えを持たせたい。

そのような活動を通して、課題を発見する力やみんなで学級・学校をよりよくするための議題を設定しようとする態度を「自分史物語（各自名称を考える。以下自分史と記述する。）」や「やる気度アンケート」などにより評価し、指導の改善に生かす。

イ 「追究」の場面

- ・ 人間関係をよりよく形成するための多様な他者との協働
- ・ 合意形成を図るための話し合いの手順や方法の理解と「思考ツール」の活用

「追究」の場面では、子どもたちが「出会い」の場面で決めた課題を協働的に解決させるために、「思考ツール」を活用する。その活用により、自分の考えを出し合い、みんなで比べて考える、分類して考える、関連付けて考えることで、みんなの意見をまとめる助けとなるのではと考える。そして、友達のを考えを受けて、自分の意見を押し通そうとする子どもが自分の意見を変え、徐々に自分の意見と友達の意見の折り合いを付けることもできるようになるだろう。多様な友達との対話、交流などを通して自己の考えを広げ深めるなど、人とのつながりは多くの学びがあることに気づき、「人とつながりたい」という思いが膨らみ、人間関係をよりよく形成する。同時に、話し合いの手順や方法を自ずと習得することを期待している。またこのツールに記入することにより、話し合い活動を振り返る資料ともなり、自己の考えを発展させたり、互いのよさを認め合ったりする結果につながると考える。

思考ツールはみんなの考えを可視化し、操作しやすくするため、話し合いなどの場面で子どもたちが主体的、対話的にかかわる状況を生み出すこともできるだろう。みんなで協力し合って学級・学校をより楽しく、より居心地のよいものにしていこうという意識を高めていきたいと考えている。

このように子どもの学びの過程が可視化されると、教師による評価もより明確となっていくし、子ども自身による自己評価の資料ともなる。ここでは、合意形成を図ることのできる力や協働して問題を解決しようとする態度を「学級活動カード」や「思考ツールシート」で評価し、指導の改善に生かしたい。ただし、活動のねらいに応じて評価項目を設定し、子どもと共有する必要があると考えている。

ウ 「振り返り」の場面

- ・ 他者との協働による諸問題の解決、よりよい生活の構築
- ・ 学級・学校生活や自己の在り方の主体的な改善

「振り返り」の場面では、決定したことについて、自己の役割を果たしたり、互いのよさを生かして協働したりして実践する場である。話し合いで決めたことを実践に生かそうとすると、話し合いが不十分であることに気付いたり、決定した通りに実践しにくかったりすることがある。このような場合でも、できる限り話し合いの決定通りに実践できるように導き、自分たちで決めたことを自分たちで実践できた満足感や成就感を味わわせたいと考える。そのために、活動を賞賛したり励ましたりして意欲を高め、一人一人の思いや願いが達成された満足感や成就感を味わうことができるようにする。また、友達と協力したり助け合ったりすることを通して、仲間意識を高めるとともに、互いのよさに気付かせるようにする。すなわち、自分たちで計画し実践することの喜びや一つのことを協力して作り上げる達成感、協力し合うことの大切さを学び取らせたい。

実践活動に至るまでは、様々な準備のための係分担など、子どもたちが自主的、意欲的に活動できる場や条件を工夫し、活動の過程で生じる様々な問題は、今後の活動の向上に役立つことに気付かせたい。また、活動の過程で作成した各係の計画表や集会のプログラムなどは自己評価の資料とし、保管することで、次の活動の参考にすることができるようにする。

一連の活動をまとめた「自分史作り」や「満足度調査」などにより、自他のよさを生かして自分の役割を果たす態度や課題を解決する力、更なる高みを目指しての課題を見付ける力などを評価し、指導に生かしたい。

評価に際しては、同じ項目で学級全体の様子についても評価し、学級の仲間の姿や関係を見詰め、一緒に取り組んでいく手応えや連帯感を感じ取らせたい。そして、評価を積み重ねることにより、自分や学級の仲間の成長を互いに感じ取れるようにする。さらに、議題や題材に合わせて評価項目を加え、〈自己効力感〉が高まっている姿として、学びや活動を生かして、協働しながらよりよい自分や学級・学校を形成しようとしているかを見取りたい。

(3) 教科等横断的な単元の構想

本プロジェクトは、学級という集団から学級・学校での生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や生活を目指して参画する教育活動である。その集団に潜む課題を解決するために、互いのよさや可能性を發揮できるような協働的な活動を通して、各教科等における学びを実際の場面で総合的に活用して実践する時間である。また、ここでの学びが各教科等の学習を行う上での土台ともなるような活動を展開しなければならない。

言い換えると、本プロジェクトでの学びが、各教科等での深い学びの実現や学びに向かう主体的で協働的な集団づくりの基盤とならなければならない。他方、各教科等で身に付けた「資質・能力」を本プロジェクトでの活動や実践に生かし、各教科等で学んだことを総合的に活用することで、実生活や実社会で生きて働く汎用的な力に高めていけると考えている。

そのような強い願いの下に、昨年度、(C 学習内容の関連性の重視)した単元構成(図1)や(D 資質能力の関連性重視)した単元構成を作成した(図2)。

過年度の実践を下に、扱う議題や題材に応じて、(C 学習内容の関連性の重視)した単元構成にするか(D 資質能力の関連性の重視)したものにするか検討したいと考えている。

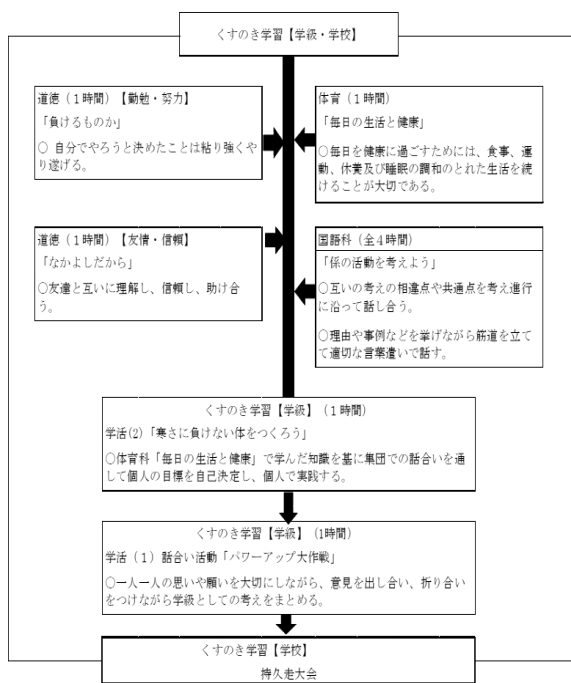


図1 C 学習内容の関連性の重視
— 3年生 —

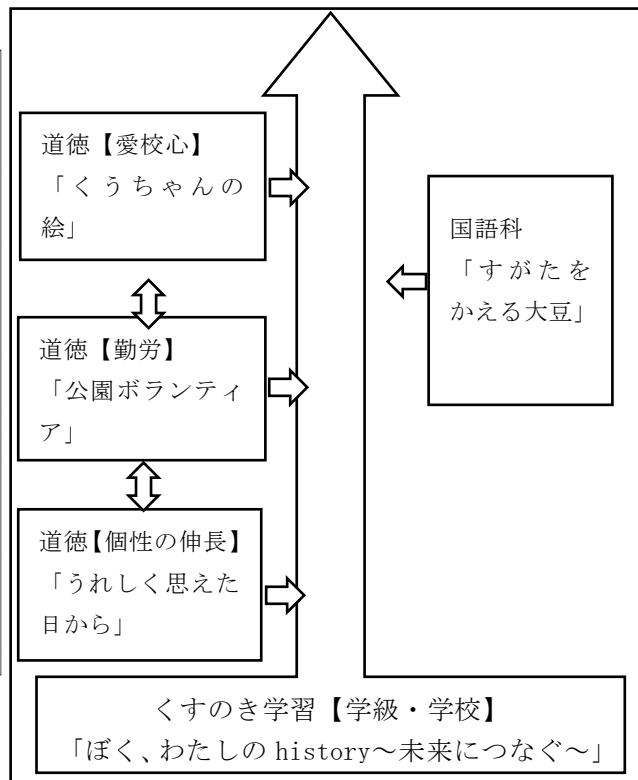
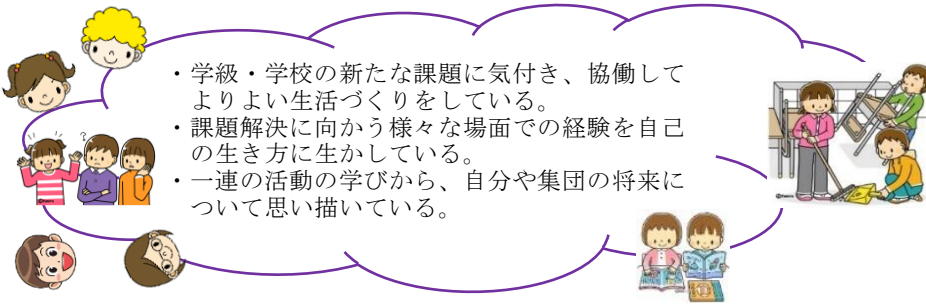


図2 D 資質能力の関連性の重視 —3年生—
(森田 宏美)

愛媛附属小 くすのき学習【学級・学校】授業づくり

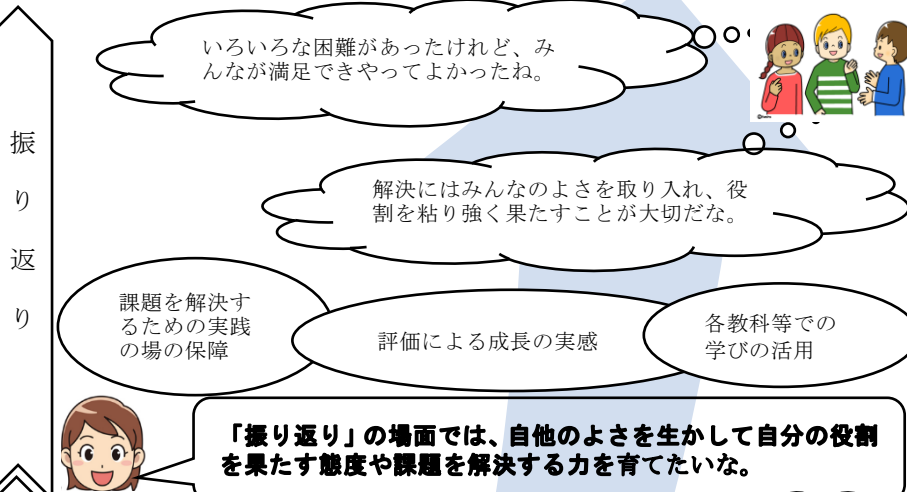
問題解決ステージ2



実践の継続・新たな課題の発見

〈自己効力感〉の高まり

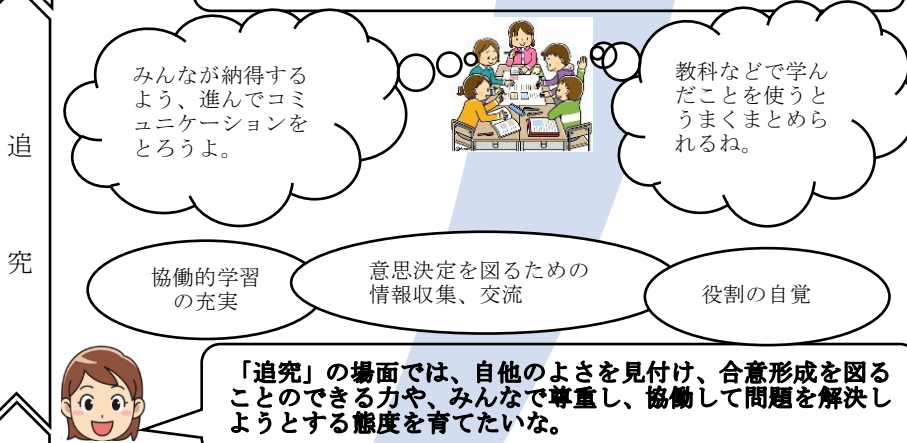
振り返り



評価方法

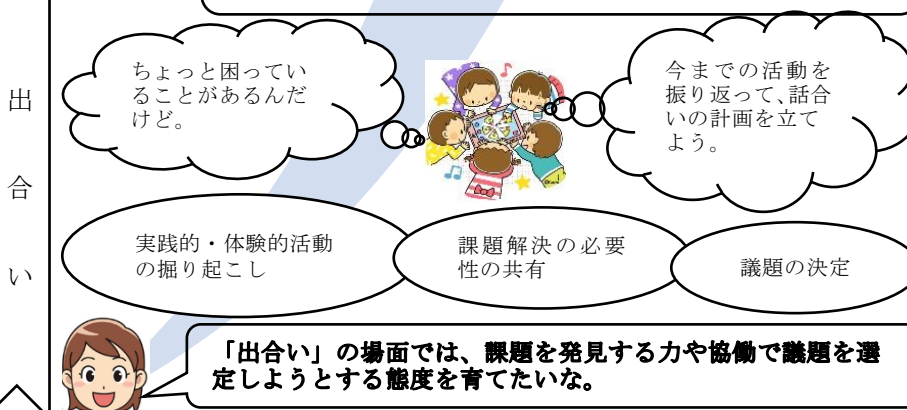
- ◎記述
 - ・自分史
 - ・振り返りカード
- ◎様態
 - ・写真
 - ・他者からの評価
- ◎数値
 - ・アンケート
 - ・満足度

追究



- ◎記述
 - ・思考ツールの活用
 - ・学級活動カード
 - ・チャレンジ(日記)
- ◎記録
 - ・写真
 - ・VTR

出合い



- ◎記述
 - ・活動計画カード
 - ・思考ツールの活用
- ◎数値
 - ・アンケート
 - ・やる気度調査

問題解決的な学習過程